

てフレアーの硬X線成分を捉えられるのかどうか疑問もある。なぜなら、最近筆者とGSFCのK. Frostとが共同で行ったOSO-5の硬X線スペクトルの解析によれば、少なくとも大きなフレアーでは、 10^8 K以上の超高温プラズマが確かに存在し、したがって、数10 keV以下のX線フラックスには、マイクロ波電波をも放射している非熱的成分（これを真の硬X線成分と名づければ）の含まれる割合は少ないのではないと思われるからである。いずれにしても、1979年の観測結果が待遠しい。我々のグループとしては、上記の理由で、最高検出エネルギーを30 keV以上のできるだけ高いところまで観測して勝負をするべきだと思う。我々の場合、X線検出器は普通のシンチレータだから、原理的に、もっと高エネルギーまで観測できるからである。

紙面には限りがあるので、SMM計画についてしか述べられなかったが、この他にも、Uhuru等のSASシリーズの後にHEAOによる宇宙X線の観測計画があり、1980年以降のよいスペース・シャトルの時代に入る。ここGSFCでも、シャトルに載せる天文観測器が、既に現実のものとして、実行に移されつつあり、各Project Scientistと各メーカーとの交渉に、筆者も何度か同席させてもらい、それらの計画を目のあたりにすることが出来た。OSO, SAS等を宇宙観測の第一世代とするなら、

現在は既に新しい第2世代の幕あけにあたるのだろうか。第一世代では、宇宙空間という全く未知のフロンティアで、新しい波長域の観測に挑んで成功すれば、殆んどの場合、何かの新しい発見につながるという幸福な時代であったのに比べ、第2世代では、より洗練された観測器とアイデアで臨まねばならずその結果、種々の観測・研究計画のうち淘汰されたもののみが残って行くという、より厳しい環境に移って行くことだろう。しかし、観測器についても、その感度と空間・スペクトル・時間いずれの分解能も、まだまだ向上を望めるものが多く、当分は天文学に残されたフロンティアであることには違いないだろう。ともかく、シャトルと共にいよいよやって来る本格化する宇宙観測の時代に肌を感じるような今日のごころである。

掲 示 板 I

第7回彗星会議の開催

本年の彗星会議は、次の通り開催されます。

日時：1977年3月26日(土)、27日(日)の2日間。

会場：神戸市北区箕谷 グリーン スポーツ ホテル

くわしくは 明石天文科学館 (Tel: 078-911-5826) 内
河野健三氏 宛にお問い合わせ下さい。

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価240円(〒45円) 77-4月号・3月5日発売!

●4月号のおもな内容

- ★春の夜空の観測は、まず春の二重星の観測から始めましょう。岡田好之さんの解説。そしてもう一つメシエ探訪はおなじみ大野裕明さんです。
- ★今年の春は「おとめ座流星群」と「こと座流星群」の観測条件が最良。春の流星観測は、藪保男さんの解説です。
- ★4月は、夕刻西の空に、なかなか見られない水星が姿を現わします。夕方見るには4月が一番条件がよい時。
- ★グリグ・シユレルuppという彗星が接近してきます。写真撮影には対象です。狙ってみましょう。
- ★限界線星食とはなに? ★4月星座 ★連星系…ほか

ふじい旭の 新星座絵図

本書はイラストレーターふじい氏が精魂をこめて描きあげた、まったく新しい星座の絵で、全ページ2色刷り、88星座を全部紹介しています。軽妙なエッセイを配し、いままでにないユニークな天文書です。

●ふじい旭著/A5変型・170ページ・1,200円発売中

天体望遠鏡製作 ハンドブック

5cm級の小型望遠鏡から20cm級の大形望遠鏡まで、木製部品の作り方から鉄工所への依頼法、図面のひき方までいろいろな工作法を、写真や図をつけて具体的に説明しました。巻末には観測小屋の自作法も加えました。

●川村幹夫著/B6判・280ページ・1,500円好評発売中

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
振替東京7-6294 電話03(292)1211